

かがわ 産業情報 21

2012
vol.45

9

September

[トップニュース] TOP NEWS

平成24年度 かがわ産業振興クラブ講演会開催!!

[特集] FEATURE ARTICLE

かがわ健康関連製品開発
フォーラムを設立しました!
～7/26 設立記念シンポジウム開催～

平成24年度
かがわ農商工連携ファンド事業の
支援対象事業が決定しました

[かがわ発]元常駐出企業]
COMPANY REPORT

インフラで、 笑顔をつなぐ。

仲興電線株式会社

公益財団法人
かがわ産業支援財団
http://www.kagawa-isf.jp

「周産期遠隔医療ネットワーク」

株式会社ミトラ

代表取締役 尾形 優子 氏

(株)ミトラは、medical information technology laboratoryの略で、医療のIT化を専門にする意味があります。「距離と時間の壁をITで打破、香川から日本へ」ということで、半年先には中国に海外進出を計画しています。海外の中でも難しい中国で失敗しながらやって、他の国々にも進出したいと思っています。

会社を立ち上げた10年前には、電子カルテというものが普及しておらず、医療のIT化もまだまだ、産婦人科の電子カルテも2年間全然売れない状況でした。

私達が周産期のカルテを販売するため、岩手県の遠野市を訪れました。そこには産婦人科医師はおらず、募集しても来る気配がない状況でした。遠野市の妊婦さんは、沿岸の病院まで最低40キロ、険しい山道を診察に行きます。リスクが多いため、遠隔医療をすることになりました。

開発したモバイルCTGは、妊婦の赤ちゃんの状態をグラフで見せて、携帯電話にデータを飛ばしました。周産期の電子カルテ(ウェブタイプ)では、遠野市で入れたものを沿岸の病院で見ることが出来ます。

助産師がお母さんのお腹にモバイルCTG装置をつけて赤ちゃんの状態のデータを送るとともに、検診結果を電子カルテに入れて沿岸の先生に送りました。沿岸の医師が遠く離れていてもデータを見て安心なら、「安心です。」とお母さんに言ってあげる。何かあった場合は、「大変だけど来てください。」と言えます。このように助産師さんが先生にデータを送り、お母さんを見守れるようになりました。

